

## かがわ AI ゼミナール開催事業

AI(人工知能)技術が、私たちの生活や働き方を劇的に変え、人手不足をはじめとした地域課題の解決に寄与することが期待されています。

県は、本年度からAIの実践的な技術を基礎から応用まで体系的に学ぶことができる「かがわAIゼミナール」を開催し、企業の技術者や学生など先端技術を担う人材の育成を積極的に推進しています。

6月から開催した基礎講座は、40人の受講者が、AIの基礎理論やプログラミング技術を学びました。10月31日からの応用講座は、東京大学大学院松尾研究室からより実践的な講座を提供していただき、三豊市の協力も得て開催しています。

こうした講座の開催を通じて、県内のAI技術を活用できる人材の層が厚くなり、新産業や新サービスの創出を推進しています。



基礎講座の風景

(問い合わせ先) 産業政策課 ものづくり振興グループ  
高松市番町四丁目1番10号東館6階 ☎ 087-832-3348  
Eメール: sangyo@pref.kagawa.lg.jp



秋山泰伺社長



「私の仕事は、お客さまが気に入るものを、いかに提案できるかが重要で」と、開発課の山下哲さん。開発チームの要としてペーパークラフト制作も担当しました。「情報収集は不可欠。時には営業に同行してお客さまと直接話をすることもあります。形や素材、デザインをゼロから提案していく過程は大変ですが、自分が作ったものが製品になっていくのは面白いですよ」と、開発の魅力を語ります。

山下さんたちの設計に基づいた製造を担当するのは生産部です。裁断・

### 企業を支える横のつながり

フにしたペーパークラフトです。「インバウンドをテーマに市場調査したところ、海外観光客は歴史的建造物への興味が高いことがわかりました。中でも大阪城・姫路城などは人気で、それをヒントに何か商品化できないかと1年がかりで開発したものです」と、代表取締役社長の秋山泰伺さん。展開図は写真から起こし、しっくりの風情を紙のテクスチャー(表面の質感)で表現したりと、苦心と試行錯誤のうかがえる精巧な一品。大阪城は既に現地でお土産として販売されていて、姫路城をはじめ、ほかの名城も商品化を目指しているところです。

山折り・谷折りの線をプレスする枠を作り、設計図通りに加工していきます。生産部の安藤哲司さんは「職人技の世界ですが、人と話をすることが一番大事です。次の工程の担当者が作業しやすいよう、常に考え、コミュニケーションを取っています。部署間の横のつながりが、いいものづくりには欠かせません」と語ります。

問い合わせ先  
(公財)かがわ産業支援財団 取引支援課  
☎087-868-9904

約9000種  
自社開発した型は

昭和の町村合併で三野町が誕生した1956年、旧大見中学校の跡地利用として誘致に応じたのが、丸善段ボール株式会社、現在の株式会社丸善でした。中学校以前は軍の通信施設だったという歴史ある赤レンガ壁の木造建築は、現在も工場の一部に利用されています。

段ボールや板紙から自社開発で特許を取得した特殊な機能紙まで、さまざまな紙を使った「紙器」を得意とする同社。強みは企画開発から製造までの自社一貫体制です。呉服箱や衣装箱などの段ボールボックスで

トップシェアを誇り、少しずつオーダーメイドの製品も手掛けるようになって、近年はむしろそちらが主軸になっています。これまで開発した製品は約9000種、社内のショールームには、華やかなフルーツの化粧箱、食品や雑貨の箱、店頭用ディスプレイや陳列ボックスなど、見覚えのある紙製パッケージがずらりと並びます(8ページ右上写真)。

営業と連携する開発チームを置き、顧客の要望に応えるだけでなく提案商品も打ち出しています。現在の1押しは、パッケージの企画制作技術やノウハウを生かし、日本の名城や甲冑(よろい)をモチーフ

## 開発製造一貫体制 紙器の可能性



よく見掛ける製品の、中身ではなく「パッケージ」をどんなところで作っているか、考えたことはありますか? 社名が表に出ない縁の下の力持ちであり、紙器の可能性を追求し続ける香川のものづくり企業をご紹介します。

株式会社丸善  
(住所) 三豊市三野町大見甲3308番地  
創業 1956年  
☎0875-72-5135  
<http://www.p-maruzen.com/>

